

2014.11.29 第12

毎週土曜日 掲載

たPTA主催
来場して盛況
幌市立札幌小

共働き増え 専業主婦頼みは限界…

PTA活動見直し動き



平日の昼間は会議なし、行事への参加は手挙げ方式で。小学校などのPTA活動を見直す動きが広がっている。共働きやひとり親家庭が増え、十分な時間を割けない保護者が多いためだ。専業主婦頼みの運営は限界に近づいており「女性の活躍」への足かせになりかねないとの指摘もある。

「みんなすっと押し黙り、ま」行事に月3、4回は参加。専業主婦だが、下に幼い娘もいて自
るでお通夜のようだった。首都担は重い。働く「ママ友」は「平日の日中に会議が多い役員は無
圏の小学校に子どもが通う女性理だ」と言い切る。

は、会長や書記などの役職を決集まったのは母親ばかり。全Aでは会議の土日開催を増やし
めたPTA役員会を振り返る。こつした声を受け、同校PTA
員がくじ引きで本年度の役員に選られたため、積極的に会長職
を引き受ける人はおらず、話しつつある。

合いは夜の10時まで続いた。女性に普及した。加入は強制ではな
性は通学路の安全点検などを行いが、子どもが入学すると、保
う委員会の担当になり、会議や護者は自動的に会員になるケ

PTA運営見直しの主な例

- 入退会自由の原則を周知徹底する
- 委員会制を廃止し、役員数も減らす
- 行事ごとに運営のボランティアを募る方式に。やりたい人が集まらない行事は中止する
- 役員や委員間の連絡、報告はメールを中心にし、会議の開催数を減らす
- 学校新設の際にPTAを設けない。クラスで世話人などを決め、学校と連携する



会議は土日に／行事参加は挙手で

すが多い。高度経済成長長期に急増した専業主婦家庭が念頭にあり、父親は仕事で参加できなくともとがめられないが、母親は「仕事を休んでも参加するのが当然」という暗黙のプレッシャーがあるという。

札幌市立札幌小PTAの「保護者と先生の会」は昨年2月に規約を変更。入退会自由を明記し、保護者の負担を見直した。会長の上田隆樹さん(50)が現状に疑問を感じたのがきっかけだった。

当初は「加入者がいなくなる」と役員全員が反対した。ボランティア方式にした岡山市立西小の事例などを紹介し、約1年かけて議論。膨大な手間と費用がかかる広報紙の作成をやめ、美化や安全などの委員会を廃止した。保護者の95%が加入し、10月に校内で開いたお祭りでは運営に手を挙げた約60人が協力するなど、「改革」は実を結びつつある。

だがこうしたPTAはまだまだ少数派だ。活動に異論を挟むと、わが子の立場が危つくなる

との心配があるほか、「私たちの時はやってきた」「周りの学校では例がない」など、役員経験者や保護者の間には慣習に徙おつとする意識が根強い。

一方で企業の取り組みが功を奏した例もある。セイコーエプソン(長野県諏訪市)は社員の要望で、有給休暇を60日間積み立てた「健やか休暇」を参観日やPTA活動にも使えるようにした。

小学生ら3人の母親(36)は「年1回は平日にPTAに参加しなければならぬので、ありがたい」と話す。休暇取得日数は女性社員の方が多く、勤続年数も21・8年で男性(18・7年)を上回るなど、女性の働きやすさにつながっている。

東レ経営研究所の屋美由喜研究部長は、PTAに限らず、婦人会など主婦頼みの地域活動が多いと指摘。「政府は女性に労働力になってほしいと期待しているが、現状では負う役目が多すぎる。男性との分担を含め、見直しが必要だ」と話している。

PTA 親と先生の組織を意味する「Parent Teacher Association」の略で、小中学校や高校に通う子どもがいる保護者と教職員でつくる社会教育関係団体。19世紀末に米国で誕生し、日本では戦後、連合国軍総司令部(GHQ)が成人にも民主主義の理念を啓発するために普及を奨励したことで、各学校で急速に設立が進んだ。

Q ズーム